



学校だより

えのき

NO. 12 (40)



〈めざす児童像〉

笑顔で なかのよい子
のびのび たくましい子
気づき 考える子

令和3年1月29日

皆野町立皆野小学校

義務教育の最大の目的は『自立へ導くこと』

26日(火)に、この春、本校への入学を予定しているご家庭の方を対象に入学説明会を行いました。来年度の入学予定児童は40名で、本校も徐々に今後の児童数の減少が予測されています。さて、私は校長として入学説明会や入学式の折に、いつもお話をさせていただいている内容があります。それは、義務教育の最大の目的は、お子さんを『自立へ導くこと』にあるというものです。



自立した一人の人間として社会を生きていくためには、自分自身のできることに引き出しや経験値を増やしていくことが大切です。子供であっても自分自身のできることはたくさんあるのですが、ともすると周囲の大人が手を貸しすぎてその機会を奪っていることがあります。

あるお医者さんの話 『診察に訪れる親子』

医「こんにちは。何年生ですか？」

母「3年生です。」

医「口を開けてください。喉は痛いですか？」

母「喉はそんなに痛くないみたいです。」

医「咳は出ますか？」

母「結構出てます。」

医「ご飯は食べられていますか？」

母「あんまり食欲がないようなんです。」

私はある学校の校医を務めていることもあり、患者が子供であっても本人の口で話すということを大切に診療してきました。その子に質問しているのですが、本人が答える前に母親が横から全部答えてしまうのです。この頃、そういった親子が増えてきました。

子供のためにはあれもこれもしてあげたいと思うのが親心ではありますが、たとえ失敗するかもしれないとしても、少し距離を置いて黙って見守ることも時には必要です。そんな時、心配になったりイライラしたりすることも正直あります。本当に親って辛いです。

また、現代では、成績や点数ばかりが目されがちなのですが、どんなに成績優秀であっても、いざ社会に出てその能力を使いこなすのは自分自身なのです。本人に代わって操縦してあげたり、代役を務めてあげたりするわけにはいきません。将来、自立して自力で物事を解決していく力は大人になって急に身につくものではなく、幼い頃から経験を積みながら育てていくものです。



失敗経験が乏しい若者が増えているというのも昨今よく話題になります。職場で失敗し上司から叱責を受けることは誰にでもあり得ることです。そんな時、自分を全否定されたように感じてしまい職場に行けなくなってしまふようでは困ります。ですから、子供のうちから小さな失敗をして、その都度自分で乗り越えるという経験がこのうえなく貴重なものとなります。もちろん、そこには周囲の応援や励ましが必要です。しかし前述したように、

失敗しないように大人が先回りをして手助けをすればするほど、自力で解決する機会は失われてしまいます。また、年齢を重ねれば重ねるほど“転んだ”時のダメージは大きくなりますし、“転び方”を知らないとならぬ時に立ち上がるのが難しくなります。

例えば、お子さんに忘れ物があった時などには、それを届けていただく前に一呼吸置いて別の方法も考えてみませんか。時には叱られ反省させてみるのも経験のひとつです。私たち教師も決して怒りではなく、深い愛情を持ってお子さんの叱り役に徹します。